



# 音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3 丁目 10-15 富士ビル 505 号室 発行人 松本敏之  
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email [nichion@yomogi.or.jp](mailto:nichion@yomogi.or.jp)



11 月 16 日 (土) グリーンヒル大野を会場に「はたらくものの音楽祭イン岩手」を開催しました。コロナの期間に活動ができなかった状態にあった私たちですが、昨年を第一歩として、ようやく動き出し、今年は東北北の仲間からも参加してもらい開催することができました。

第 1 部を歌声喫茶ふうに 7 曲 (青い山脈等) を会場みんなで歌い、発声練習? になったところで第 2 部としてコンサートを行いました。県内の日音協の仲間はもちろん、新毛さんとユニットを組んでいるリリックスや東京から高橋円さんも参加してくれたおかげで、休眠中だった SHMK も演奏することができました。それぞれのユニットがそれぞれの特徴を生かした発表となり、参加者も楽しめる内容となりました。(群馬から豊巻直子さんもかけつけてくれました。)

青森から佐藤康弘さん、秋田から大嶋さん、リバーサイド (後藤さん、藤原さん) のお二人も参加してくださり、大いに盛り上がりしました。

交流会では、もちろんお酒も入りながら、日音協の歌をかわるがわる歌い通し、音楽っていいなあ、仲間っていいなあと感じる会となりました。

(事務局長・佐藤幸子)



SHMK (かな子・八屋・円・新毛)



三田地望美



ゲストは秋田のリバーサイドグラス (藤原真栄・後藤雅裕)



ミニオンズ (佐々木かな子・佐藤幸子)



リリックス (平谷茂子・新毛郁子)



佐々木マンション (佐々木和子・貴)

## 笑顔笑顔のコンサートでした!

## 2024 はたらくものの音楽祭 in いわて

### 第1部 みんなでうたおう...歌声喫茶てきに

- |           |          |
|-----------|----------|
| ① 青い山脈    | ⑤ かあさんの歌 |
| ② 真夜中のギター | ⑥ さらば 青春 |
| ③ 翼をください  | ⑦ 大きな橋   |
| ④ たき火     |          |



### 第2部 みんなできこう...コンサート2024 in いわて

- |                                |            |          |
|--------------------------------|------------|----------|
| ① ミニオンズ (佐々木かな子・佐藤幸子)          | はじめの IPPO  | ゆるされぬこと  |
| ② リリックス (平谷成子・新毛郁子)            | オリビアを聴きながら |          |
| ③ 佐々木マンション (佐々木和子・佐々木貴)        | バナナポート     |          |
| ④ 三田地 望美 素朴                    | 認めてあげないとな  |          |
| ⑤ 三田地 昇二                       | 君の笑顔は百万ドル  | ほくにあずけて  |
| ⑥ SHMK (佐々木かな子・八屋ひろ子・新毛郁子・高橋円) | ばあばの子守唄    | 自由の木     |
| ⑦ 高橋 円                         | うた         |          |
| ⑧ 佐藤 康弘                        | たずねておいで    | 休耕田に佇む百姓 |
| ⑨ 大嶋 忠男                        | 春・夏・秋・冬    | 泣く子はいいえが |



[Guest] リバーサイドグラス (後藤雅裕・藤原真栄) 移動音楽広場のテーマ 大地のメロディー



線引きやっこ ひかり輝くこの瞬間に  
だから言いたいことを言おうよ

# 2025年度活動方針(案)

## 1 はじめに

ロシアによるウクライナへの侵攻、イスラエルによるパレスチナ・ガザへの攻撃など、世界の平和は危機的な状況にあります。日本を戦争のできる国にしようとする動きも活発になっていきます。物価高によりはたらく者の生活は厳しくなっています。そうした中で、新型コロナウイルス感染症の影響で人と人との交流や音楽が制限された時期が過ぎ、日音協の各地域での活動ももて戻ってきました。第55回はたらくものの音楽祭は、富山県支部を除き全支部が結集し、成功をさせることができました。

日音協は、支部を日常活動の集約の場として、労働組合の集会をはじめ様々な場に出かけ、また、多くの音楽現場を作り出していきます。そして、生活のうた、職場のうた、平和のうたをつくり、うたい、ひろめ、つなぎあうことを柱に、はたらくものの立場にたった音楽運動のみずからを表現する運動を、職場・地域の中に広げていきます。私たちは、労働組合との連携を強めるとともに、労働組合に加入していないはたらく人々とも手を携えます。はたらくものの音楽祭と機関紙『音楽運動』を中心に全国的なつながりを大事に活動していきます。

一方、新しい世代に日音協の運動を引き継いでいくという課題は率直に言って停滞した1年でした。行動の中で生まれた新しいつながりを、

さらに2025年度の活動を通じて発展させていきましょう。

## 2 はたらくものの音楽祭

第56回はたらくものの音楽祭を、2025年10月18日、19日に長野県千曲市で開催します。

日音協各支部代表で中央実行委員会を構成して、労働組合等の協賛を得て主催するとともに、連合長野をはじめ長野県内の協力してくださる労働組合(支部)と日音協長野県支部で構成する第56回はたらくものの音楽祭長野県実行委員会が実行態勢を大きく支えることとします。

参加者・出演者の経済的負担の軽減と日音協開催側の負担の軽減をはかるとともに、労働組合等の支援も厳しくなっていることを踏まえて、持続可能な音楽祭を工夫します。

第57回はたらくものの音楽祭の開催の準備をはじめます。

## 3 ブロック合宿

ブロック合宿は、会員と支部を基盤とする組織になった日音協が、新しい会員を迎える重要な機会であり、会員一人ひとりが、会員になってもほしい人・会員になってもいいなと思っている人を誘って参加することをめざします。2024年度は北海道ブロック、東北北ブロック、関東ブロック、北信越ブロックと香川県支部で合宿を開催できましたが、2025年度は九州ブロック、沖縄県も合宿を開催するとともに、東北南ブロック合宿の開催をめざします。引き続き次により日音協中央

財政から支援することとします。

(1) 日音協のいくつかの支部が合同で、または一つの支部が主催するもので、合宿形式をとること

(2) 外部講師、日音協中央を除いて5人以上の参加が見込まれるものであること

(3) あらかじめ日音協中央に日程、会場を通知したものであること

(4) 一年度一つの支部につきこれらの要件を満たす合宿が複数あるときは、そのうち参加者の多いものを優先して扱います

(5) 金額は、一年度一つの日音協ブロック合宿につき、参加者(外部講師、日音協中央を除く)が5人の場合を10000円とし、参加者が1人増えるごとに10000円を増額します。ただし上限を40000円とします。

## 4 日音協セミナー2025と日音協

### Next Stage

ステージスタッフ講座を開催するとともに、全国の仲間に参加いただけるような創作講座を工夫して開催します。両講座を同じ日程で日音協セミナー2025として開催するか、別日程とするか、別日程の場合日音協会計からの持ち出しを増額させない工夫をどうするか、早急に検討することとします。

従来の若い会員の交流会を日音協Next Stageに改め、若い会員を中心に音楽を基本に全国的に交流できる場として開催します。40歳以下の会員は、引き続き往復交通費を日音協が負

担します。まだ日音協会員になっていない若い人も歓迎します。

## 5 連合、平和フォーラムなどの行動参加

引き続き、連合中央メーデー、各県メーデーの集会、労働組合の大会・集会や行動などに積極的に参加、うたい演奏します。連合中央メーデーでの演奏を日音協の顔としての合唱・演奏と位置づけて、ていねいな合唱練習をして準備します。

平和フォーラムの構成組織として、平和フォーラムやその地域組織の行動に参加します。

さようなら原発1000万人アクション、戦争をさせない1000人委員会や5・3憲法集会をはじめとした総がかり行動など、地域の反戦・平和・脱原発・労働者の権利擁護のための行動に参加し、うたい演奏します。

## 6 沖縄に連帯する行動

沖縄では、第二次世界大戦で唯一地上戦が戦われ、アメリカの軍政のもとで土地を奪われ、米軍基地を造られ、今なお米軍専用施設の70%が集中しています。辺野古ゲート前の座り込みは感染症まん延防止のために長期の中断を余儀なくされましたが、再開の状況にに応じて、沖縄の被害、差別の実態をまなび連帯するために参加を全国に呼びかけます。

とりわけ、2025年の5・15沖縄平和行進・県民大会に、日音協は平和フォーラム構成団体として参加します。

(3面につづく)

# 絆を大切に新たなつながりも発展させていきましょう

(2面からつづく)

## 7 県支部・サークルがつくる音楽現場

県支部やサークルが積極的に音楽現場をつくりまします。また、毎月第3金曜日の官邸前反原発行動(反原発うたいたい)のように、街頭で訴える音楽現場も工夫します。

## 8 日音協ソングの募集など

日音協のみずから表現する運動の重要な柱である創作を推進するために、日音協ソング2025を募集します。各支部の意見をきいたうえで会長が指名する人と日音協幹事会メンバーあわせて8人で選考委員会を構成し、応募曲の中から全国に広めたいうたを選考し、音楽祭などで広めます。応募曲集を『音楽運動』号外として配布するとともに、日音協会員には楽譜のデータを共有することを検討します。

日音協と共通の理念をもって歌を創っている音楽家にインタビューして「歌を創るということ」としてインターネットで共有します。

## 9 インターネットによる動画の配信等

YouTube 上の「Nichionkyou Music」チャンネルを活用して、会員やサークルの演奏する動画や音源を配信・共有します。また、リモート・ミュージック・ミーティングを引き続き開催します。

動画の作成やインターネット配信について、経験を交流しまなび合う機会を工夫します。

ホームページを充実することにも、メーリングリストやSNSのような相互の情報共有を工夫します。CDや新しい歌集等を制作します。支部のCD等の制作を支援します。

## 10 組織活動

日音協は、個人である会員とその日常活動の集約の場である支部を基盤とする組織です。北海道支部、青森県支部、岩手県支部、秋田県支部、福島県支部、茨城県支部、千葉県支部、東京都支部、新潟県支部、長野県支部、富山県支部、香川県支部、九州支部、沖縄県支部の14支部と支部に所属しない会員とで構成されています。この1年間、会員数は2023年11月(192人)から入会●、退会●で●人●の●人(2024年11月1日現在)となります。

労働組合は、自治労、林野労組、東武交通労組と公務労協が賛助団体として支えてくれています。はたらくものの音楽祭は、開催県実行委員会をつづじてさらに多くの団体が支えてくれています。

地域支部と労組が日音協活動の基盤であるという認識から、日音協地域支部の新たな結成をはかります。同時に、労働組合との関係を強化するとともに、労働組合全国組織ごとに労組内の音楽活動家を組織する労組音楽協議会(音楽集団)との連携

を強化します。

若い仲間をはじめとして会員の拡大に全体で集中して取り組みます。行動の中でおおぜいの参加者に演奏を聴いていただき、また地域でコンサートを開いて、一緒にうたう仲間を広げます。音楽祭やブロック合宿に、新しい仲間積極的に参加を呼びかけます。それと同時に、日音協は「音楽運動に定年はない」と言ってきましたが、改めてそのことが現実になるような活動をすすめましよう。

日音協会員は規約では支部会員と個人会員としていますが、これから新たに日音協に入会していただく方は、地域に地域支部がある場合は原則として地域支部に属することがとし、また地域支部に属することが難しい場合には、幹事会の議論を経て個人会員とします。現在の個人会員も、地域に地域支部がある場合は、会員本人の理解と納得のもとに、順次地域支部に属していただくこととします。

日音協は、総会―全国代表者会議―幹事会という機関で、各支部の活動を集約し、全国的な活動を進めていきます。2025年度の幹事会はインターネットの活用(zoom ミーティング)も含めて毎月開催します。2025年度の全国代表者会議は7月に開催し、第62回定期総会は音楽祭の開催日を考慮して12月に開催します。

## 11 機関紙活動

メールマガジンとして、機関紙『音楽運動』のA4版6ページ、月1回配信を継続します。印刷・郵送による発行も継続しますが、インターネット配信への切り替えを引き続きお願いしていきます。機関紙購読料は、取材・編集費用として引続き年2400円(月200円)とし、日音協会員は会費に含まれることとします。全国の動きを知らせるためにも写真を多用し、楽譜も多く掲載していきます。発行にあたっては、全支部、全会員が、編集部に情報を送るとともに、編集部は年間の企画を立てて各支部・会員に原稿を要請し、支部も依頼された原稿の締切を守って、発行態勢を支えていくこととします。各支部事務局は会員・読者に届いているか、年1回は点検することとします。

## 12 財政活動

日音協は2009年の組織改変以後も、賛助団体が減少し、会員も減少傾向が続いています。会員を増やす活動に力を入れていますが、成果があらなければ財政規模の縮小は避けられません。

2020年から2023年まで、感染症対策のために支出が大きく減った一方、事業収入なども大きく減っています。この間、事務局経費の節減をはかってきましたが、2025年度も堅実な執行につとめるとともに、新しい会員を迎えるために、各ブロック合宿や日音協Next Stageにはしっかり財源を配分します。

# 今年もオープニングで演奏



11月9日に「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」の第3回総会が浪江町で開かれた。昨年同様に総会オープニングで日音協への演奏依頼があり、高山・坂口・南條の3名が参加した。歌った曲は「むらさきつゆくさの歌」「これ以上海を」「よみがえれふるさと」の3曲をソロとハモリで披露。会場は普通の会議室で音楽演奏に利用できる音響設備はなく、3人それぞれが持参したアンプで対応。うち一台が音出しの時に使用不可となるトラブルが発生したもののマイクを歌い手に合わせて位置を変えるなどで何とか歌いきることができた。

会場には加入団体の人だけでなく他県より浪江町に移住して復興に携わる子連れの若いお母さんなど個人会員の顔もチラホラ見えていた。終了後には日音協の演奏に感激され楽譜を希望された人も。(この会は避難地域13市町村のみならず県内全体の人々の暮らしと健康を守り、国の責任による「健康手帳」交付の実現を目指し2年前に発足した団体です。会では坂口・南條が運営委員を担っています。)

(福島・南條善徳)

編集部より

■11/23~24 日音協 SONG 選考委員会  
さて2024 日音協 SONG は、どなたに？  
発表と演奏は、12月7日の日音協全国総会で行われます。(音楽運動では、1月号に掲載しますし、号外として応募曲の楽譜集を配布します。)

■さて、東京都支部コンサートが11月30日開催されました。さすがにこれは『音楽運動』掲載には間に合わないのので、この報告も1月号となります。

■総会や今後の活動について、(大谷くんではありませんが)ヒリヒリしたりワクワクするようにしていきましょう。(佐藤)



しの子サークル最大の行事第42回「うたのひろば」を11月9日(土)に富山県射水市の大門総合会館にて、日音協富山県支部の仲間や富山アコーディオン研究会の皆さんの友情出演の協力を得て、開催することが出来ました。今回は毎年使用していた会場が急遽使えなくなり、どうなることかと心配しておりましたが、何とか地域の仲間やサークル員の知り合い・家族の協力を得て、和気あいあいの中で進行していききました。毎回苦労しているシングアウトも

## 心地よい疲れが残る時間

サークル員一人一人の担当で10曲あまりをスムーズに出来、喜んでおります。合唱曲4曲は日頃の練習の成果もあり、何とか皆さんに聴いていただくことが出来ました。

(金川敏之)



# ガチャで演奏をしよう

2024日音協関東ブロック合宿を10月26日から27日、千葉県習志野市で開催しました。

今回のメインは「ガチャで演奏をつくろう」で受付でのくじ引きにより4つのグループに分かれ、曲も場面も自由に決めて演奏をつくり、聴きあい批評しあって活かして再発表することをテーマにおこないました。1時間半ほどの限られた時間のなかでグループごとに選曲や想定する場面を話し合い練習



もおこない、発表でA班は「ジユゴンがすむ海」など路上コンサートを想定してMC付きで、B班は「だれもきかない話」、C班は「長崎平和祈念像の歌」など、D班は地元のお祭り会場を想定して若い親子にも聞いてもらえるように「となりのさんぽロード」は3曲をつなげました。発表後の批評会ではアンプの使い方やそれぞれの場面設定に対しての意見、MCに対する要望や選曲に関する評価など多くが出されました。

夜はミニコンサートでは合唱団ミール、瓦井孔二、高橋円、狭石啓子、Pigies、岩野浩昭、森理子・加本和美、茨城県支部が発表し、夕食交流となりました。

2日目は再び各班に分かれ、批評会が出されたことを踏まえて50分ほど練習したのち発表をおこないました。

た。歌詞のコピーを配った。歌詞を先読みして会場全体と一緒に歌えるように改良したグループや、指摘されたMCやアンプの使い方などそれぞれが短い時間ながらも場面設定をより意識した成果発表になりました。その後、「反原発うたいたい」で歌われているうたを参加者で歌い、感想を出



## ふるさと赤塚祭りで演奏！茨城県支部

### 今後も裾野を広げた運動を！

11月10日、水戸市赤塚市民センターにおいて「ふるさと赤塚祭り」が行われ、日音協茨城県支部として5名で演奏しました。

赤塚地区自治会長で水戸市議だった飯田正美氏からの依頼を受け、10数年ぶりの出席となりました。司会者からの紹介を受け定刻の10時15分からスタートし、「上を向いて歩こう」「青春時代」「さんぽ」「里の秋」最後の「ふるさと」まで全9曲を披露したところ観客から「アンコール」がかり、水戸黄門に因んだ

し合い終了しました。個人的にはガチャでどうなるか不安でしたが、組んだことがなかった仲間と意見を出し合いながら演奏をつくった。批評を活かしていかに会場を盛り上げるかを考えることができたと思います。参加された皆さん、ありがとうございました。

(根本賢治)

「ああ人生に涙あり」を演奏し喜ばれました。

会館前のスペースでは、野菜の格安販売、豚汁販売、住民からの寄付品によるバザー、会館内ではポップコーン販売等も行われ、高齢者から幼児まで幅広い世代の参加者が見受けられました。

働く者の立場での音楽普及活動と同時に、広く地域住民との触れ合いや音楽現場の創出もまた今後活動の裾野を広げる意味で重要であると感じました。

(江崎)

# 水道橋 だより

▼谷川俊太郎さんが11月13日、亡くなった。92歳だった。谷川さんの詩では「死んだ男の残したものは」（曲＝武満徹）が広く歌われていると思います（『うたのひろば』1集に掲載）が、2集には「空に小鳥がいなくなった日」（曲＝林光）と「ひとりぼっちの裸の子ども」（曲＝湯浅譲二）が掲載されており、いろんな場面であいました。ご冥福をお祈りいたします。（松本）

▼2024 はた音いわてに行って、歌ってもきました。写真でもお分かりかと思いますが、参加者の皆さんの笑顔笑顔が特徴的でした。プログラムもスマホで撮って掲載しました。曲目など打ち直せば見やすいかもしれませんが、味があるので原本を載せました。ビデオがありますので、近々日音協のホームページで紹介します。▼なんと総会と同じ12月7日には久慈で「うたごえ喫茶5」を開催すること。ごめんなさい、参加できません。（佐藤）

## 歌の力が物語るもの 136

茉莢坂うた行動 11/8（526回）報告 Rico

【参加者】かおるさん、スーさん、守屋さん、イサさん、美野さん、ゆきさん、上野さん、森 計 8名

上野さんが新曲をもって来てくれた。新曲は『原発エリジー』。スメタナの『モルダウ』のフレーズが使われている。『モルダウ』を原曲としてはさだまさしが映画『次郎物語』の挿入歌『男は大きな河になれ』を創っている。上野さんの歌はさだまさしの歌の替え歌だそう。『さだまさしはジエントーの』にどうか〜と思っていたけど、加藤剛が映画の中で唄っていたのを聴いて、

て、すくよかったんだよね」と、創作に至った経過を話してくれた。私は元歌をちゃんと聴いたことがなくて音の記憶が曖昧で、伴奏が追いつかなかったが、みんなは歌詞カードをみながら上野さんのリードでくりかえし味わった。上野さんの歌で私の大好きな『あなたに届け』と『子どもの明日のために』を続ける。上野さんの歌はたくさんあるけれど、新しい人たちが歌詞カードとして配れていないものも多い。

「茉莢坂も世代交代だね。ここを通るひと世代が代わっているだろうね。我々がやっていることも、なに？って感じなんだろうな。」と上野さんが言う。忘れてはいけない出来事なんだ。避難したひと、しなかったひと、それぞれの痛み。そんな思いで『双葉の秋』を歌う。女川原発の話題が出る。目先の利ばかり追う原発政策。『水に流すな』『明日を殺すな』『私たちは許さない』。

『ふるさと沖縄』を歌って、当山さんの話題が出た。防衛省や東電や国会前のいろんな行動に参加していた沖縄出身の当山さん。イサさんもあちこちで一緒にあって、よく覚えていた。辺野古ゲート前に『ふるさと沖縄』を持ち込んだのも当山さんだった。当山さんがよく歌っていた『芭蕉布』を歌った。ヨッシー、利美さん、当山さん…亡くなった仲間の懐かしい名前が出て、『声よ集まれ歌となれ』を歌いたくなった。「君と一緒に闘える」は茉莢坂の心でもあるよね。そんな存在にどれほど支えあえてきただろう。

周平さんが来たら『DO！廃炉』を歌おう、と、実はみんな思っていたらしい。19時もしずいぶん過ぎたから今日はお休みなのだとあきらめて、今いるメンバーでがんばってみた。原発名列挙、私は3番でひっかった。残念！守屋さんはギターを弾きながらコンプリートしたそう。すごい！この歌を創った北海道の笠木さんも今はもういない。茉莢坂にも何度も来てくれた人だ。歌があり、歌い続ける私たちがいるかぎり、彼らができることはない。

『風車の唄』で行動を終えた。元気出していこう。

先日（11/15）、秋田県支部の方が茉莢坂を訪ねて下さいましたが官邸前集会の日だったので、そちらに集中していました。残念！毎月第3金曜日は官邸前での『原発いらない金曜行動』に参加しています。日音協総会に出席されるみなさん前日の12/6（金）18時半～19時半 茉莢坂は歌っていますよ～！

## どん行

(185)

飯島貞親

した中で、何でもありの自殺的な粗暴行為に走らぬことを願うばかりだ。

▼トランプがアメリカ・ファーストと幻想を撒き散らして大統領の座を得た。米国の上位1%の超富裕層が米国の富全体の3分の1を保有し、富裕な人たちはほど富を増やしている。貧しい人たちはその逆に、貧富の格差はさらに広がっている。どこかの資本主義大国も、辺境から奪ってきた富の一部を労働者にも分配し、中間層を育て不満が爆発しないように対処してきたのだが、そのゆとりを失いつつかく育ててきた中間層を食い物に始めた。そのためどこでも社会的なストレスが激増し、移民が諸悪の根源であるかに言われるようになった▼1期目の時はまだ政界新参者だったが、今回のトランプは、とりわけ銃撃暗殺未遂事件以降は神がかり的になり、「私は神に守られている」と思い込む暴走状態に突入。全てを自分の思うままに仕切って周りをお友達で固めつつある。とりわけイーロン・マスクが、トランプ陣営のパトロンの取りになり、政権移行チームに口を挟んだり、トランプとウクライナのゼレンスキー大統領との電話会談の場に立ち会ったりしているのは問題で、法とルールに背く仲間同士の国益を損なう危険が増している▼そう